

単元に係る児童の実態

本学級の児童の社会科の学習についての実態を調査したところ以下の結果となった。(省略あり)

| | 好き | どちらかという好き | どちらかというきらい | きらい |
|---------------------------|-----|-----------|------------|-----|
| 発表するのは好きですか。 | 15人 | 11人 | 9人 | 5人 |
| 自分の考えと友だちの考えを比べることは好きですか? | 7人 | 15人 | 13人 | 5人 |
| 調べたことを地図や新聞にまとめるのは好きですか。 | 14人 | 12人 | 8人 | 6人 |

本学級の多くの児童は、調べたことをまとめる作業が好きであると答えた。したがって、学習問題の解決のために白地図に色を塗ったり、既習事項を関連づけて新聞などにまとめたりする活動が学習の定着につながると考えられる。一方で、自分の考えを発表することや自分の考えと友だちの考えを比べることが嫌いだと答えた児童も多かった。児童が自信をもって発表するために、資料を読み取る時間を十分に取、自分の考えをノートにしっかりと書かせて指名していくことや話し合い活動のルールや形態を工夫し、学習問題の解決のために多角的・多面的な考えを得る環境を整えることが大切であると考えられる。

単元のゴール

○火事からくらしを守るための様々な仕事や工夫を理解するとともに、自分の身の回りで火事が起きたときどうすれば良いのかを考えることができる。

【知識・技能】

- ・消防署は、地域の安全を守るために、連携して緊急時に対処する体制をとっていることや地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解すること
- ・見学・調査したり地図などで調べたりして、まとめること

【思考力・判断力・表現力】

- ・施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること
- ・社会生活を営む上で大切な法やまきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちができることなどを考えたり選択・判断したりすること

【学びに向かう力、人間性等】

- ・地域社会の一員としての自覚をもつこと
- ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする事

社会的事象の見方・考え方

【時期や時間の経過】

- ・火災が起きた時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることを知る。

【位置や空間的な広がり】

- ・火災に備えたり、対処したりするために地域や校内のどこにどのような施設・設備があるのかを知る。

【相互関係】

- ・関係機関や地域の人々がどのように連携・協力して火災などの発生に備えたり対応したりしているのかを理解する。

課題を追究したり解決したりする活動

○小単元「火事からくらしを守る」における学習問題を設定し、その問題の解決に向けて次の活動を指導する。

- ・消防署を見学する。 ・地域の消防設備を地図にまとめる。
- ・自分自身の安全を守るためにできることを考える。

主体的な学びに向けて

- ・学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促すようにする。

対話的な学びに向けて

- ・見学先への質問を考え、教えてもらったことを資料として残しておくようにする。

深い学びに向けて

- ・「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題を追究したり、解決したりする活動をする。

単元計画 (10 時間扱い)

◎学習問題 ◇学習問題の答え ○学習課題

1 時間目

○火事の現場ではどんな仕事をしている人がいるのだろう。

◎火事からわたしたちの生活を守るために、どのような人々がどのような働きをしているのでしょうか。

◆各時間終了時の児童の姿

- ◆火事現場での仕事や働く人を知り、学習に意欲をもつ。
- ◆単元の見通しをもつ。

2 時間目

○学習問題について予想し、調べることについて話し合おう。

◆学習問題に対する予想、学習計画を考え表現できる。

3 時間目

○見学のための計画を立てよう。

◆調べたい事をはっきりとさせ、質問事項を考えている。

4・5 時間目

○消防署を見学しよう。

【社会的事象の見方・考え方】 [時期や時間の経過]

火災が起きた時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることを知る。

◆消防署で働く人の仕事内容について理解している。

6 時間目

○なぜ、消防車は火災現場に素早く到着できるのだろう。

【社会的事象の見方・考え方】 [相互関係]

関係機関や地域の人々がどのように連携・協力して火災などの発生に備えたり対応したりしているのかを理解する。

◆通信指令室の役割について理解している。

7 時間目

○地域や校内には、どのような消防施設・設備があるのだろう。

【社会的事象の見方・考え方】 [位置や空間的な広がり]

火災に備えたり、対処したりするために地域や校内のどこにどのような施設・設備があるのかを知る。

◆フィールドワークをした内容を地図にまとめることができる。

8 時間目

○地域や市の取組にはどのようなものがあるのだろう。

【社会的事象の見方・考え方】 [相互関係]

関係機関や地域の人々がどのように連携・協力して火災などの発生に備えたり対応したりしているのかを理解する。

◆地域の消防団や深谷市では火災から人々を守るためにどのような活動をしているのかを理解している。

9 時間目

○火事からくらしを守る人々の働きをまとめよう。

◇火事からわたしたちの生活を守るために、消防署(消防士)を中心に市や地域が協力して、様々な取組をしている。

◆学習問題の答えを自分の言葉で書くことができる。

10 時間目 (本時)

○火事を防ぐために、自分たちには何ができるのか考えよう。(選択・判断)

◆火事を防ぐ予防の仕方を考えることができる。

前時の概要

火事からくらしを守る人々の働きをまとめよう。

「消防署(消防士)」

- 勤務の工夫(宿直)・衣服の工夫(防護服・着脱)
- 訓練(救助・トレーニング)・消防車の点検
- 通信指令室

「地域」

- 消防団・ポスター・防災無線の活用

「市」

- 総合防災訓練・パンフレット・ポスター
- 消防施設、設備

↓

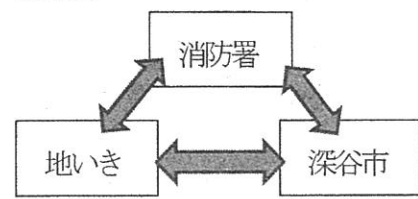
それぞれが連携、協力している

学習問題の答え(例)

◎火事からわたしたちの生活を守るために、消防署(消防士)を中心に市や地域が協力して、様々な取組をしている。

本時の目標 火事を防ぐために自分たちには何ができるのか考えよう。

板書計画 火事からくらしを守るために



みんなは火事を防ぐために何ができることはないかな?

本時の学習課題

火事を防ぐために自分たちには何ができるのか考えよう。

主な火事の原因

放火 こんろ たき火
たばこ ストープ

共有

- 火事を防ぐためにできること
- 火遊びをしない。
 - 花火をする時はバケツを用意する。
 - 火がついている時はその場から離れない。
 - ストーブなどの近くには燃えやすいものを置かない。
 - 必要の無いコンセントは抜く。
 - 家の外に燃えやすいものを置かない。

自分のランキング

理由(1位のみでも可)

個人

伝え合い

学習課題の答え

わたしたちは地域の一員として防火について考え、できることに取り組んでいかなければならない。

今後の展開

期待する児童の姿

- 火事を防ぐために自分でできることを実践している。また、家族に紹介したり、啓発したりする。
- 火事が起きてしまった時の対応についても既習事項から考えることができ、火事における通報の仕方も身に付けている。
- 自分の考えと他者の考えを比較・検討して、よりよい考えを導き出すことができる。

次時の学習課題

- 事故や事件からくらしを守るために働く人々の仕事や工夫、地域との連携はどのようなになっているのだろうか。

主体的・対話的で深い学びに向けて

- 【主体的な学び】の実現に向けて
- 学習課題を設定し、問題解決型学習を取り入れる。
 - 消防署の見学を通して児童が得た知識や経験を課題解決に生かせるように展開を工夫する。
- 【対話的な学び】の実現に向けて
- 消防士へのインタビュー(社会科見学)から、火事からくらしを守るための様々な工夫などに気づくことができるようにする。
- 【深い学び】の実現に向けて
- 社会的事象の見方・考え方の位置や空間的な広がりを感じさせるために、白地図を用いて、地域の消防施設・設備を調べる活動を取り入れる。

本時の流れ(授業スタンダード)

問題発見

前時までの学習から、火事からくらしを守るための仕事、施設・設備、地域の役割について学んだ。そこで、自分たちできる事を考え、実践すれば安全なくらしにつながるのではないかという事に気づかせ本時の課題につなげていく。

本時の学習課題

火事を防ぐために自分たちには何ができるのか考えよう。

【指導上の留意点】

- 前時までの課題解決から本時の学習課題解決の見通しをもたせる。

問題解決①

火事を起こさないようにするために大切なことを考える。

学習内容

- 火遊びをしない。
- 花火をする時はバケツを用意する。
- 火がついている時はその場から離れない。
- ストーブなどの近くには燃えやすいものを置かない。
- 必要の無いコンセントは抜く。
- 家の外に燃えやすいものを置かない。

【指導上の留意点】

- 火事の原因となる事象を紹介し、気をつけなければならないことを想起しやすくする。

問題解決②

考えたことを話し合い、多様な考えを知る。

学習内容

- 根拠を明確にして、自分が大切だと思ったことを相手に説明する。

問題解決③

自分の生活において大切だと思うことをランキング付けし、根拠を明確にして、説明できるようにする。

【指導上の留意点】

- ワークシートに理由を記入できる欄を設け、自分の考えを相手に伝えられるようにする。

まとめ・振り返り

学習課題の答え

わたしたちは地域の一員として防火について考え、できることに取り組んでいかなければならない。

本時の学習の振り返り(例)

今までは、防火のために〇〇しか意識していなかったけど、たくさん取り組む事があると知り、自分でも気をつけようと思いました。

次時につながる新たな問い

- 事件や事故からくらしを守るためにはどのような工夫があるのだろうか?